

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

「穏やかな図書室の時間」

学校司書 後藤さおり

社会人になり、いくつかの仕事を経験したが、基本はずっとピアノ講師。子育てするのに自宅で出来る仕事は有難かったが、子どもの手が離れてくると、何か新しいことを始めたいと思うようになった。資格に挑戦することで、受験生の娘と同じ気持ちになれるかも？本が好きだからと安易な気持ちで「図書館司書」を目指したが、学生はウン十年ぶりでレポートもなかなか書けない。そんな時、父が読みかけの本を残して突然あちらに旅立った。小さい頃よく本を読んでくれた父に、励まされたような

気がして何とか資格を取得。昨年の春、ご縁あって図書室に息を吹き込む役を頂いた。中学校の図書室に着くと、照明のスイッチを押しかーテンを開け、部屋の温度を整える。子どもたちは真面目で、本を読まないなら図書室には用がないと思っているらしく、来てくれるのはよほどの本好きか、勉強する3年生がほとんどだ。でも、ここには色んな本がある。世界の絶景や可愛い動物の写真を眺めたり、トリックアートを楽しんだり、画集を広げたり。とりあえず気になった本を開いてみて！面白くて、いつの間にかしゃがみ込んで大丈夫なように「ちっちゃなイス」を置いたり。どうしたら図書室に来てくれるかな？先生方に

助けていただきながら試行錯誤している。子どもたちは目ざとくて、図書クイズのため壁に貼り付けた飾りにも瞬時に反応してくれるし、時には一緒に折り紙や展示を手伝ってくれたりもする。勉強中は邪魔をしないように、ちよつと距離を置いて見守るようにしているが、時々お喋りの仲間入りをさせてくれることもある。

最近、桜にまつわる本を集めて「サクサク」コーナーを作った。3年生が無事合格できますようにと願いを込めて。この原稿が読まれる頃には、みんな新しい世界で頑張ってるだろうな。この図書室で過ごした穏やかな時間を、いつか思い出してくれたら嬉しい。



言の葉だより

作家、親善大使など様々な顔を持つ俳優
黒柳徹子 編

2500万部を超える、空前のベストセラー『窓ぎわのトットちゃん』。2023年には映画化され、42年ぶりに続編が出ました。“トットちゃん”とは、今もお俳優や司会者として第一線で活躍する、黒柳徹子さんです。

幼い頃「テツコ」と言えず「トット」と言っていたことから、自然とその呼び名に。トットちゃんは昭和8年、黒柳家の第一子として生を受けます。前作では、奔放な行動ゆえ小学校入学後数カ月で退学を言い渡され、その後通った「トモエ学園」での、のびのびとした小学校時代を描きました。続編では、戦争が激化したのを機に、母子4人で青森へ疎開してからの半生を綴っています。

終戦から1年後、進学のため1人東京へ。昭和24年には、シベリアに抑留されていた父親が5年ぶりに帰国。家族は東京でまた一つになりました。そして進路に悩んでいたある日、NHKのテレビ専属俳優募集の新聞広告が目にとまります。試験が行われた昭和28年にはテレビ放送が始まり、テレビ時代一期生としての期待も背負っていました。6千人の中から十数人が合格。その中にトットちゃんの姿もありました。1年間の養成期間を経て正式採用され、子ども向けラジオドラマ「ヤン坊ニン坊トン坊」でデビュー。番組は大成功を収め、以降ラジオやテレビで活躍していくことになります。

また昭和59年、アジア初のユニセフ親善大使に任命されました。戦争の生々しい傷あとが残る現地を訪れ、子どもたちが直面している問題を広く訴え、募金などの支援を呼びかける活動が続けられます。

現在90歳。好奇心旺盛で強い意志を持つトットちゃんの活躍に、これからも目が離せません。

トモエのことを書く、というのは、長い間、もっとも、私がしたいと思っていたことの、ひとつでした。(略) トットちゃんみたいな女の子でも、まわりの大人のやりかたによって、なんとか、みんなとやっていける人間になれる、という事を知って頂けたら、と思っているのです。

— 『窓ぎわのトットちゃん』より —

トットちゃんに関連するクイズです。

I. 「トモエ学園」の小林校長先生が、1日に何度も、トットちゃんに言い続けてくれた言葉がありました。「君は〇〇〇いい子なんだよ」。〇〇〇に入る言葉はどれ？

①とても ②日本一 ③本当は ④意外と

II. NHKの採用試験に見事合格したトットちゃん。合格の決め手となったのは？

①演技について何も知らなかったから
②個性的な声をしていたから
③記憶力が良かったから
④周りを明るくさせるから

III. 独特のヘアスタイルが印象的です。最初に“タマネギ”と呼んだのは誰？

①渥美清 ②井上ひさし
③久米宏 ④草野仁

IV. トットちゃんが大好きな動物は？

①ゾウ ②パンダ ③キリン ④ウサギ

【こたえ】は左下にあるよ

【参考文献】『窓ぎわのトットちゃん』『続 窓ぎわのトットちゃん』(講談社)、『トットちゃんとトットちゃんたち』(講談社)、『小さいときから考えてきたこと』(新潮社)、『トットひとり』(新潮社)

※いずれも黒柳徹子/著

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 4月 —

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

— 5月 —

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

— 6月 —

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

休館日

【こたえ】 I・・・③ II・・・① III・・・③ IV・・・②

クリスマスミニコンサート

12/16



今回のミニコンサートでは、病院・学校園・老人会など様々な施設で演奏活動をされている丹波マンドリンクラブ「クローバ」のみなさんに演奏いただきました。3種類のマンドリンとクラシックギターによる調和のとれた優しい音色が図書館の中に流れ、幅広いレパートリーで聴衆はマンドリンの世界へと引き込まれました。途中には演奏に合わせ一緒に歌ったり、曲当てクイズをしたりと、会場が一体となったコンサートで、日頃の図書館とは違った雰囲気を感じ、楽しんでいただけたのではないのでしょうか。



かるた会 1/13



今年、多可町子ども会育成連絡協議会と協賛で開催しました。百人一首12名、いろはカルタ17名と、町内外からたくさんのおともたちが参加してくれました。とくに百人一首は、例年以上に参加者が集まりました。子どもたちの白熱した戦いに会場は大いに盛り上がり、熱気に包まれていました。いろはカルタは、年齢別のグループにわかれ、大きいカルタやおはなしカルタ、ことわざカルタなどで札を取り合いました。小学生のグループは、播州弁カルタにも挑戦しました。札を取る「はい」という元気な声が会場に響き渡りました。



Fカワ



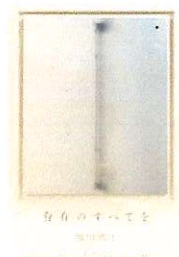
Fオカ



Fツム



Fナツ



Fシオ



Fミヤ



K913チ



Fナキ



Fアオ



Fタサ

「2024 年本屋大賞」ミネート作品が発表されました。

大賞の発表は4月10日(水)です。

候補作家	作品名	出版社	所蔵館
川上未映子	『黄色い家』	中央公論新社	多可
小川哲	『君が手にするはずだった黄金について』	新潮社	多可
津村記久子	『水車小屋のネネ』	毎日新聞出版	多可
夏川草介	『スピノザの診察室』	水鈴社	加美
塩田武士	『存在のすべてを』	朝日新聞出版	多可
宮島未奈	『成瀬は天下を取りにいく』	新潮社	多可
知念実希人	『放課後ミステリクラブ1 金魚の泳ぐプール事件』	ライツ社	多可
風見ゆう	『星を編む』	講談社	多可
青山美智子	『リカバリー・カバヒコ』	光文社	加美
多崎礼	『レーエンデ国物語』	講談社	多可

図書館 NEWS

12.11~3.31

クリスマスおはなし会

12/23



12月23日、クリスマスおはなし会を行いました。3歳~11歳のおともたち17人と保護者が参加くださいました。冬のおはなしやクリスマスにちなんだ絵本、「はらぺこあおむし」のパネルシアターなどを披露しました。大きな絵本に目が釘付けになったり、あおむしが食べるのにあわせて親子でむしゃむしゃしたりする微笑ましい姿も見られました。最後に、素敵なプレゼントをお渡ししました。みんな喜んでくれたかな？

約100年前に北海道で起きた大災害と、そこで懸命に生きる人々を描いた、一気読み必至の名作です。(あ)

3日後、奇跡的に一命を取り留めた拓一が戻ります。「家族の命を奪った土だからこそ、この地で農業を続けたい」。流木の散乱する、硫黄に荒れた泥田を復興することに命をかける拓一。兄の思いをくみながらも、無理だと諭す耕作に、拓一は言います。「大変な時にこそ持ちこたえる馬鹿がいないと、この世は発展しない。俺はその馬鹿になる」

大正15年5月、突如十勝岳が爆発します。溶岩にとけた積雪が泥流となり、すべてを押し流しました。裏山の頂上からその様子を見ていた兄弟。しかし拓一は、逃げ遅れた家族を救うべく荒れ狂う激流に飛び込みます。噴火からわずかな時間に起こった出来事に、耕作は悪夢を見ているような心地がするのです。

日々通勤・通学をする人にとって「連休」はうれしいもの。ただそれは、会社や学校での複雑な人間関係や、せわしない日常があるからこそ、次の休日が待ち遠しく、休日が何日でも続けばいいの、と思うのかもしれない。

会社員であればゴールデンウィークや年末年始の10日程、学生ならば夏休みの40日程がいわゆる連休の相場です。ところが、著者は仕事を辞め、結果的に6年間、2000連休以上を過ごしています。

あまりに長い連休の間に、人間の感情や身体はどのように変化していくのか。自己探求した様々な結果が書かれています。週に1度、大喜利の解答で得た最低限の金を稼ぐ事はしているの、全て休日ではありませんが、基本的に世間と離れて生活しています。2000日以上かけて自分を掘り出した実例として見れば、非常に興味深く、疑似体験しているような感覚になりました。後半になるにつれ哲学的な思索が多くなりますが、押しつけがましい考察や解説は少なく、最後まで面白くおもしろく読めます。

人生の指南書ではなく、衝撃の体験談といえる作品です。(よ)

1年生になったばかりのまさは、背が高くからでも大きいけれどたいへん臆病な男の子です。一方、2年生のなかで一番背が低いのをいやだと思っているあきよは、自分の気持ちに従いつつすぐに行動する女の子です。

通学路の暗い崖が怖くてならないまさは、あきよに手を引かれて登校します。そんなしつかり者のあきよが、苦勞して見つけたホタルブクロの花を上級生に踏みじられるという出来事が起こります。気丈なあきよが泣き出すのを見て、まさはあきよの好きなホタルブクロが群生しているという一本杉の森へ行こうと決心します。遠い一本杉まで、たつたひとりで向かうまさは、様々な迷いや弱気が起こるたび、あきよちゃんならこうする、と自分を励まし歩き続けるのでした。

小さな事件の連続が、まさを少しずつ強くし、成長をもたらします。そんなまさは頼りにされているのだと気づき、あきよは背が伸びないと悩む自分をおかしく思うのでした。ホタルブクロの野原と空にかかる雨上がりの虹が、大きい1年生と小さな2年生を祝福してくれる物語です。(り)



Book Menu

『泥流地帯』『続 泥流地帯』



三浦綾子/著
主婦の友社 (Fミウ)
ジャンル：小説

『人は2000 連休を与えられるとどうなるのか？』



上田啓太/著
河出書房新社 (916ウ)
ジャンル：ノンフィクション

『大きい1年生と小さな2年生』



古田足日/作
偕成社 (K913フ)
ジャンル：児童書

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

昨日と同じ今日、今日と同じ明日がずっと続く日々。なんの感謝・感動もない日は、あつという間に過ぎいつしか一年が終わっています。そんな時、多可町のニュースキヤスターになれるふるさと納税を知り感動し、応募しました。しかし、コレだけでは物足りないと感じていました。実は私は4冊の本を出版しています。「それを全国に広めるのが自分の夢」とまで言い、最も応援してくれていた教え子が51歳という若さで亡くなりました。彼の夢の実現のためにも本の朗読もさせていただきたいと、たかテレビの局長さんをお願いし「朗読の部屋」が誕生。本の内容は全て実話で、東京のある区内で一番荒れていた学校の支援に行き、道徳の教材として話しました。「もつともつと話を聞きたい。本にまとめたい」という子ども達のリクエストに、応えたものです。ぜひ、お読みいただき、ご親戚やご友人にお薦めいただけますと、多可町とご縁ができた甲斐があります。

「生きる力は『読書』から」 教育アドバイザー 松村二美

話は変わりますが、51歳で亡くなった教え子は、彼が高校生の時に父親の会社が倒産。働きながらアメリカの大学を卒業しました。そして、ニューヨークやシンガポール、日本に5社を持つ社長になったのです。彼には生きる力がありました。また、孫自慢になり恐縮ですが、孫は小4で英検2級に合格し、慶應中学にも入学できました。先日は、裁判を傍聴しに行ってきたらしいです。この二人に共通するのは、幼い頃から読書好きだったということです。そして、両親共に読書家であったことです。多くの可能性があるステキな町、多可町のお子様方が、素晴らしい人生を歩まれる初めの一歩は「読書」からと考えています。それには、ご両親が本を読んでいる姿を見せる事が基本です。お忙しい日々だと思いますが、頑張ってください。

昨日と同じ今日、今日と同じ明日がずっと続く日々。なんの感謝・感動もない日は、あつという間に過ぎいつしか一年が終わっています。そんな時、多可町のニュースキヤスターになれるふるさと納税を知り感動し、応募しました。しかし、コレだけでは物足りないと感じていました。実は私は4冊の本を出版しています。「それを全国に広めるのが自分の夢」とまで言い、最も応援してくれていた教え子が51歳という若さで亡くなりました。彼の夢の実現のためにも本の朗読もさせていただきたいと、たかテレビの局長さんをお願いし「朗読の部屋」が誕生。本の内容は全て実話で、東京のある区内で一番荒れていた学校の支援に行き、道徳の教材として話しました。「もつともつと話を聞きたい。本にまとめたい」という子ども達のリクエストに、応えたものです。ぜひ、お読みいただき、ご親戚やご友人にお薦めいただけますと、多可町とご縁ができた甲斐があります。



ことば 言の葉だより

子どもたちに近い目線を持ち続けた作家
宗田 理 編

1985年に出版された『ぼくらの七日間戦争』。中学生たちを主人公にした、宗田理著『ぼくら』シリーズは全51作品、累計部数2000万部を超えます。

1928年、東京都世田谷区生まれ。8歳の時に開業医だった父親が死去し、その後は母方の祖父が住む愛知県で育ちました。商業学校に入学した年、太平洋戦争が始まり、「死ぬしかない」と諦めたこともあったそうですが、17歳の時終戦を迎えます。

戦後名古屋で見たアメリカ映画に感動し、映像の勉強をするため、日大芸術学部へ入学。卒業後はシナリオライターの助手や雑誌の編集者などを経験します。作家の原稿を手伝いながら書いてみた作品が、直木賞の候補になったこともありました。

『七日間戦争』が生まれたのは、当時新聞で連載していた小説を、角川の担当編集者の娘が読み、父親に「こういうのを書いてもらったら」と勧めたことがきっかけなのとか。以来子ども向けの本を1学期に1冊のペースで書き続けたといいます。そして昨年、『ぼくら』シリーズ51作目『ぼくらの東京革命』を出版し、今年4月、95年の生涯を終えられました。

自身の体験から、反戦を訴えてきた宗田さん。「いつの時代も、悪い大人が権力を握れば、正直者や弱い者は利用される」。しかし作品に登場する「悪い大人」たちはどこか間抜けで、憎めない一面を持っています。そんな大人たちに対し、暴力ではなく「いたずら」で面白おかしくやっつける、というのが、宗田さんのこだわりでした。あるインタビューで語った言葉があります。「大人は経験も知識も豊富だが、ただすべてを信用するのではなく、自分自身の頭で考え行動する。そういう子どもたちであってほしい」と。

人間、どんなに苦しくても、生きてさえいればなんとかなるものなんだ。特に若いうちの失敗や苦労は、それをがんばって乗り越えることができれば、その人をいちだんと大きく成長させてくれるものなんだよ。

— 『ぼくが見た太平洋戦争』より —

宗田理さんに関連するクイズです。

- I. 大学を卒業後、1年半ほど週刊誌の編集に携わります。週刊誌の名前は？
- ①『週刊アスキー』 ②『週刊現代』
③『週刊スリラー』 ④『週刊文春』
- II. 1979年、自分の名前で書いた最初の小説が直木賞候補になります。その小説のタイトルは？
- ①『ペテン師ファミリー』 ②『未知海域』
③『誘拐ツアー』 ④『欲望の靴』
- III. 『ぼくらの七日間戦争』の拠点になった場所の名は？
- ①自由城 ②奔放国 ③開放域 ④解放区
- IV. 1988年公開した映画『ぼくらの七日間戦争』。これがデビュー作だった俳優は誰？
- ①後藤久美子 ②深津絵里
③森高千里 ④宮沢りえ
- 【こたえ】は左下にあるよ

【参考文献】

『江古田文学』(江古田文学会)
『ぼくが見た太平洋戦争』(PHP研究所)
『ぼくらの七日間戦争』(角川書店)

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 7月 —							— 8月 —							— 9月 —						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

休館日

【こたえ】 I・・・③ II・・・② III・・・④ IV・・・④

子どもの読書週間 特別おはなし会

5/11

4月23日から5月12日のこどもの読書週間に合わせ、おはなしサークルあいあいさんによる特別おはなし会を開催しました。こどもたちは語られるおはなしや楽しい絵本に引き込まれ、少しこわい紙芝居にも「こわーい」といいながら見入っていました。みんな終始リラックスした様子で、楽しい時間になりました。



図書館 NEWS

— 4～6月 —

トライやる

6/5～9



中町中から1名、加美中から1名、計2名の生徒が図書館業務を体験しました。本の貸出・返却以外にも、本にフィルムシートを貼る装幀作業、新聞整理、分室等への本の回送、ポスターづくりなど、日頃目にすることの少ない図書館業務も体験しました。期間中には図書館まつりもあったことから、大量の本を移動させるなど、大忙しの5日間でした。



今回は図書館に来てくれた2名は職員から指示された以外にも自発的に館内に飾るアジサイや職員のエプロンにつけるカエルを折り紙で作成するなど、自分たちが図書館に出来ることを自ら考え行動に移していました。

トライやるを通じて得たことを、今後の学校生活に活かしてもらえたらと思います。
※図書館だよりのタイトルロゴも書いてくれました。

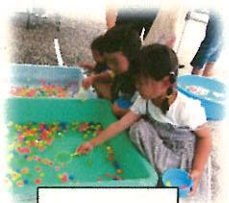


第19回 図書館まつり

6/8



ガチャガチャコーナー



ミニ縁日



リサイクル広場



紙とんぼづくり



オープンカフェ

当日は天候に恵まれ、多くの方にご来館いただきました。ありがとうございました。各コーナーとも大盛況で、楽しい時間を過ごしていただけたことと思います。

次回の図書館まつりは、来年4月にオープン予定の生涯まちづくりセンター「あすみる」で開催することになります。今後とも皆さんに親しまれる図書館を目指していきたくと思っていますので、お気軽にお立ち寄りください。



播州織しおりづくり



プラバンづくり



大人気♪
はしご車&白バイ



3Dカードづくり



おはなし会



特産品販売



フィルムカバー体験



多可の歴史 紙芝居



全長1マイルにおよぶ円筒形の銀河調査船は極限の加速度で、ある恒星系へ急行しています。数時間後に爆発するその恒星の第三惑星には電波を利用できる程度の知性が存在しており、この破滅に瀕した種族を救うことが船長アルヴェロン率いる乗組員達に課せられた任務なのです。そして間もなく滅びの時を迎える悲運の惑星とは、銀河の片隅にある地球に他ならないのでした。アルヴェロンは宇宙の未知なる力によって全知を与えられた異星人なのです。

人が「愛されたい」「認められたい」「役に立ちたい」「ほんのちよっぴり自由が欲しい」という4つの願望を持つているので、これらを大切に教育してきた、という松村さん。体当たりで挑まれた、教育現場での日々を綴った本書には、子どもたちとの微笑ましいエピソードが数多く掲載されています。そして「教育に悩んでいるどこかの誰かに、ほんの少しでもお役に立てれば」という思いが込められています。

この本は「心の中」が大きなテーマです。2人の秘密が明かされる時、明かされ方によってとらえ方や感じ方は違うものです。嬉しさや悲しさ、寂しさや怒りなど、誰もが感じたことのある感情の数々が見事に表現されています。とても引き込まれるテンポ感のよいストーリーで次々とトリズミカルに繰り広げられる展開が次のページを開きたくなります。何より一人ひとりの心の描写がとても繊細で色鮮やか！



Book Menu

『太陽系最後の日』



アーサー・C・クラーク/著
早川書房 (933 ク)
ジャンル：小説

『学級愉快』



松村二美/著
風詠社 (370 マ)
ジャンル：実用書

『あの子の秘密』



村上雅郁/作
フレーベル館 (K913 ム)
ジャンル：児童書

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区靴屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

「なんでも聞いてみよう!図書館のレファレンスサービス」
福井県立図書館 司書 宮川陽子

「石丸伸二の『覚悟の理論』を探しているんだけど」今朝、勤務している福井県立図書館のカウンターでお尋ねいただいたのですが、その題名の本がない!

みなさんは図書館員に普段どのくらい声をかけますか?なんだか忙しそうだから、なんとなく恥ずかしいから、いろんな理由で声をかけたことはないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実は、図書館の大事な仕事のひとつに「レファレンスサービス」があります。何か知

りたいとき、探したい本があるときには、ぜひ図書館員に聞いてみてください。図書館員が知りたいことが載っている本を紹介したり、探している本を探したりする、このサービスがレファレンスサービスなのです。

とはいえ、どんなことを聞いていいのかわからないです。図書館員は、みなさんが知りたいことを、図書館の資料や、インターネットの情報などから、探し出すお手伝いをします。たとえばこれまでこんな質問をお受けしました。「基じまいの仕方」「絵手紙の書き方」「ピーマンの佃煮の作り方」「読書感想文を書きやすい本」(この原稿は夏休み期間中に書いています)。最終的

に図書館の本をお渡しすることで解決出来る質問であれば、なんでもお受けすることが出来ます。

さて、冒頭の『覚悟の理論』。東京都知事選挙で話題になった人物の著作ということもあり、ピンときた方もいらっしゃるかもしれません。正しい書名は『覚悟の論理』でした。

十月二十日、多可町図書館にお伺いします。図書館員がどのようにみなさんの質問にお答えしているのか、調べ物をするときのコツは?こういった内容についてお話しする予定です。『覚悟の論理』からどうやって『覚悟の論理』にたどり着いたのか。ご興味があれば、ぜひ御参加ください。



こと は 言の葉だより

ペン1本で富と名声を手に入れた作家 フランシス・ホジソン・バーネット編

『小公子』『小公女』『秘密の花園』…。これらの有名な児童文学の作者は、フランシス・ホジソン・バーネット。イギリスで生まれ、アメリカで活躍した人気女性作家です。

1849年、工業都市マンチェスターで中流階級の商家に生まれます。しかし彼女が3歳のとき父親が急死、一家は転落の一途をたどりました。母方の伯父を頼りアメリカへ移住した後、貧しい生活を脱するため、報酬目的で雑誌社へ投稿。作品は認められ、以来売れっ子作家となります。フランシスが18歳のときでした。

2度結婚しましたが、どちらも幸せな結婚生活ではなかったようです。ただ最初の夫との間に生まれた2人の息子のことは溺愛していました。しかし長男は病にかかり、16歳の若さで亡くなります。息子を失った悲しみは、生涯癒されることはありませんでした。唯一心を晴らすことができたのは、大好きな土いじりだったそうです。ニューヨーク州ロングアイランドに土地を購入し広々とした庭を作ったフランシスは、60歳のときこの地で『秘密の花園』を書き始めました。この作品は、彼女の存命中にはあまり注目されませんでしたが、死後、時代をこえて読み継がれる傑作となります。

教育らしい教育は受けずに育ち、あふれるばかりの想像力と創造力を次々と紙に記し、莫大な財産を築いたフランシス。今年、没後100年にあたります。イギリスとアメリカ両国で非常に人気があり、大人向けの小説を70冊あまり、子ども向けを4冊書きましたが、100年後の現在、子ども向けの本の作者としてのみ名前をのこすことになるとは、彼女自身、思いもよらなかったことでしょう。

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 10月 —							— 11月 —							— 12月 —						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

休館日 【こたえ】 I...② II...① III...④ IV...② V...③

わたしは世の中にもっと楽しみと幸せをもたらしたいと願い、あらん限りの力をふり絞って書いてきたのです。

— 『秘密の花園の向こうへ』より —

フランシスさんに関連するクイズです。

- I. 生まれ故郷のマンチェスターでは、ある工業が大変盛んでした。それは何?
- ① 毛織物 ② 綿織物 ③ 石炭 ④ 製紙
- II. 『秘密の花園』を書き始めたロングアイランドで、彼女が植えた672本の花とは?
- ① バラ ② ユリ ③ アジサイ ④ サクラ
- III. 次男をモデルに書いた『小公子』。本とともに大西洋の両岸で大流行したという、主人公が着ていたスーツの素材は?
- ① シルク ② コーデュロイ ③ ツイード ④ ビロード
- IV. フランシスと同時代ではない作家は?
- ① ヨハンナ・シュピリ ② フィリパ・ピアス ③ ロバート・ルイス・ステューヴンソン ④ マーク・トウェイン
- V. ロンドンとワシントンD.C.に豪邸をかまえ、ヨーロッパを外遊したフランシス。生涯に大西洋を渡った回数は?
- ① 13回 ② 23回 ③ 33回 ④ 43回

【こたえ】は左下にあるよ

【参考文献】『小説家フランシス・ホジソン・バーネット』川端有子/著(玉川大学出版部)、『秘密の花園の向こうへ』アン・スウェイト/著(国書刊行会)、『少女小説をジェンダーから読み返す』木村民子/著(亜紀書房)

ビブリンピック

7/20～8/31



夏休み期間に開催されたビブリンピック。参加者は台紙を手に、決められた冊数にチャレンジ。幼児部門 70 名、小学生部門 224 名、中学生部門 29 名の参加があり、達成者は幼児 35 名、小学生 109 名、中学生 17 名でした。

また、今年は、「図書館のふしぎをみつけよう」スタンプラリーも同時開催し、200 人の参加がありました。豪華なシャンデリアや赤い絨毯を見つける



など多可町図書館の不思議を発見し、最後にカウンターでガチャガチャに挑戦!! 新図書館の缶バッジをゲットしていました。



みどりこども園来館

8/22

みどりこども園の4歳児、5歳児の子どもたちが午前と午後に分かれて来館してくれました。おはなし会では、静かにおはなしを聞いてくれていました。また、大型絵本にはとくに興味を持ってくれたようでした。おはなし会終了後は、児童コーナーでかりて帰る本を選び、1人1冊ずつ貸し出しを行いました。

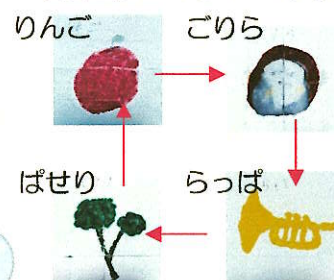


お迎えのバスが来るぎりぎりまで本を選んでいる子もいましたが、それぞれにお気に入りの本が見つかったようでした。

図書館 NEWS

— 7～9月 —

夏の恒例行事「手づくり絵本講座」を開催しました。今年は、4つのしりとりで構成されたエンドレスしりとり絵本づくりに挑戦。手づくり絵本作家の村上祐喜子さんの明快な指導のもと、しりとり絵本の制作方法やアイデアの具体的な手法を学ぶことが出来ました。子どもたちは、4つのしりとりを組み合わせること、しりとりに沿った絵を描くことなど、想像力を膨らませながら自分だけのオリジナル作品を仕上げていました。完成後は一人ずつ作品の発表会を行い、満足そうな表情を浮かべていました。



手づくり絵本講座

8/18



ストーリーテリング講座 9/5(全3回)



小栗栖真弓さんを講師にお迎えし講座を開催しました。第1回は「ストーリーテリングと子ども」という内容での講義でした。子どもは生命のこもった言葉を通しておはなしの中の出来事を体験します。

その体験を楽しむことによって人間の心をうけとり、自分自身の心をつくりあげていくのです。人間の営みへの無条件の信頼が育まれ、それが生きていく支えになる、そのような語りを子どもたちに届けたいものです。

多可町図書館 秋のイベント情報

「読み聞かせ講座」

と き：10月31日(木)
10時～11時30分
講 師：今西茂子氏
定 員：20人(要申込)
託児あり(要申込)
締 切：10月24日(木)

「手あそびとわらべうた講座」

と き：11月2日(土)
10時～12時
講 師：原 三恵子 氏
定 員：20人(要申込)
締 切：10月19日(土)

多可町図書館講演会

「一生使い倒す！図書館の上手な使い方」

と き 10月20日(日) 13時30分～
講 師：宮川陽子氏(福井県立図書館職員)
定 員：50人(要申込)
内 容：日頃のレファレンス業務からうまれた覚え違いタイトル集『100万回死んだねこ』。この本が出来るまでと、出来てからの裏話。そして、レファレンスとは何かなどなど。図書館の便利な使い方を知っているだけでぜんぜんちがう。暮らしに役立つ図書館のおはなし。



多可郡中学生理科自由研究作品展

期 間：10月10日(木)～24日(木)【10/15、16、21、22日は休館】
10時～18時【最終日の24日は16時まで】

ホセ・アルカディオ・ブエンディアという男が、いとこのウルスラと結婚する際、血族結婚で生まれる子どもには豚のしっぽが生えるという先例やさらに1人の男をホセが殺してしまつたことから、2人で村を出て、新しい村マコンドを開拓することになったところから物語は始まります。マコンドにやってくるジプシーたちにそのなかで錬金術に夢中になる父親、働きづめの中3人の子どもを育て、成長した子どもたちが、どんどんと一族の人数を増やしていきます。ブエンディア一族の100年の間には、同じ名前が登場するなど、登場人物表を何度も見返しながら根気強く読む必要がありますが、誰が誰か分からなくても面白い要素がたくさんあります。どの世代でも不可解な行動を取り続け、何度も同じ事を繰り返す息子たちや子どもを産み、家を守る女性たちの一族の盛衰から目が離せなくなりました。奇想天外なエピソードがてんこ盛りで表現も神秘的な部分がたくさんあり魅力たっぷりです。現在までに46の言語に翻訳され、5千万部発行されている世界的ベストセラー。日本でも最近文庫化され話題となつた1冊です。(よ)

数学といえば、方程式、関数、微分積分、確率、統計、図形など難しい内容が想起されます。しかし、数学という世界で紹介されている理論や数式の集まりを本当に理解する才能を持たなくても、数学をながめて感じ取れるものがあります。著者はそれを、さまざまなものの方の経験だといえます。たとえば、鉛筆の長い方と底の方、視点をかえてみると全く違うものに見える、といった具合にです。

直線的な形の人工物に比べて、不規則で有機的に思える自然界にも、法則性がありそうです。雪の結晶が六角形、動物の顔や体は線対称、ひまわりやデイジーの花は点対称、というように、この世の森羅万象はじつは数や形の法則で成り立っているというのです。

著者は数学の世界に、生死や感情にかかわる残酷さや生きるゆえに在る業ではなく、永遠の宇宙の真理あるいは自然の法則のような、どこまでも澄んだものを感じ取れると述べています。かわいイラストに助けられながら、素直に自由に、さまざまなものの見方を発見する、「うがくさんぽ」を楽しみましょう。(り)

小さな古い家や店が立ち並ぶ村の通りに、ニコラスじいさんの靴屋がありました。おじいさんは若いころブーツ作りの名人でしたが、町に新しい店ができて以来仕事が減り、靴を直してほそぼそと暮らしていました。

ある日孫のジャックから、隣家の少女のために、軽くて柔らかい部屋靴を作つて欲しいと頼まれます。市で見つけた、バラのように赤いモロツコ革のきれはしで靴を作ると、ほんの少しだけ生地が余りました。おじいさんはそれを使い、人形用に小さな小さな靴を作り、店の窓にぶらさげておきました。人々はおじいさんの腕に感心しながらも、買わずに通り過ぎます。その夜、月の光を受けて明るく輝く小さな靴に、人間以外の生き物が集まってきました。その中には妖精もいて…。

表紙を眺め「どんな本だろう」と想像するのも、読書の楽しみの一つです。この本の表紙に載っている妖精たちは、まるでいたずらっ子のように。はたして彼らは、おじいさんとジャックに何をもらたすのでしょうか。(あ)

Book Menu



『百年の孤独』



G・ガルシア＝マルケス/著
新潮社(963力)
ジャンル：小説

『すうがくさんぽ』



前田まゆみ/著
あすなろ書房(410マ)
ジャンル：実用書

『くつなおしの店』



アリスン・アトリー/さく
福音館書店(K933ア)
ジャンル：児童書

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糀屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

「わらべうたと子ども」
姫路おはなしの会 原三恵子

昨年11月に「手あそびとわらべうた講座」にお招きいただき、皆様と楽しい時間を過ごさせていただきました。

私は、昭和29年に大阪梅田の近くで生まれ育ちました。戦後のベビーブームのお陰で、町内には沢山の子どもがいて、毎日皆で身体をいっぱい使って遊びました。中でも大人気だったのは、10人以上で遊ぶ「探偵・盗人ごっこ」でした。組分け歌は、ズラリと並んだ子どもたちが真剣に見守る中で、探偵組と盗人組の親分が歌い、子分を選び取っていきま

す。ルールの分からない小さい子は、大きい子たちと一緒に走り回れるだけでも楽しそうでした。毬つき、縄跳び、あやとりなど遊びの中にはいつも歌があり、友だちがいました。そして、私の大好きな本もまた、子ども時代の大切な友だちでした。

そんな私が、縁あって姫路で、乳幼児と保護者向けに毎月2回「わらべうたと絵本の会」をさせていたことになり、もう20年が経ちました。初めは、毎回いろいろな準備をし、どうなるかと試みる日々でしたが、わらべうた遊びを楽しみながら、ゆっくり成長してく子どもたちの姿に、逆にいろいろなことを教えられました。

幼い子どもたち(特に赤ちゃん)は、わらべうたをとても集中して聞きます。何か不思議なことでも聞くように、じつとこちらを見つめながら、手足を動かし、声を出して反応し、やがて表情豊かに笑ってくれるようになります。そしてだんだん、お母さんだけでなく、他の人たちとも一緒に遊べるようになっていきます。その生き生きとした笑顔を見ると、「人間の根っここのところに、きつと何か大事なものが育っている」。そんな気がしてならないのです。

子どもたちのために大切に伝承されてきたわらべうたを、これからも、大事に手渡していけたらと願っています。



言の葉だより 子ども心を持ち続けた女性 ルース・スタイルス・ガネット編

図書館を訪れる小さなお客さまから「エルマーの本はありますか?」と聞かれることがあります。タイトルは『エルマーのぼうけん』。9歳のエルマー少年が、年とったのら猫から「どうぶつ島」に捕らえられた子どものりゅうの話を聞き、助けに行こうと決意するところから始まります。小さなエルマーが逞猛な動物たちから上手に逃れ、りゅうの子が繋がれている川を目指す様は、子どもも大人もドキドキハラハラします。

作者のルース・S・ガネットは1923年、雑誌の記者をしている両親のもとに生まれます。3歳から通った学校では、子どもたちが作ったお話を先生が書き留め、あとで読んで聞かせてくれるという、ユニークな授業がありました。ルースはそのころから、自分のお話が文字になってゆく喜びを知ったそうです。

大学卒業後、アルバイトをしていたスキー場で退屈しのぎに書き始めたのが『エルマーのぼうけん』でした。できあがった作品を、父と、父の再婚相手の義母に見せたところとても好評で、出版社に持ち込むと書籍化が決まります。挿絵を担当したのは、それまでも絵本の挿絵を描いていた義母で、後に夫となる画家のピーターも地図や文字を描きました。家族の協力を得て作った本は好評を博し、続く『エルマーとりゅう』『エルマーと16ぴきのりゅう』とともに、今なお世界中で愛されるベストセラーとなったのです。

しかしルースは「作家になりたいと思ったことは一度もない」と語っています。「エルマーを書いたのは、子どものころに知った、物語を作る楽しい時間を過ごしたいと思ったから。言葉にすれば、ないこともあることにできる。わたしには、物語を書くことは『楽しみ』で仕事にはならないの」だと。

エルマーはわたしの。子どものころ、やりたいと思いながら我慢していたことをエルマーにやらせたの。

— 『エルマーのぼうけん展』より —

ルース・S・ガネットさんに関連するクイズです。

I. 父親と仲が良かったある作家は、ルースが語るお話を書き留め、挿絵をつけてくれたこともありました。それは誰?

- ①ワンダ・ガアグ ②ガース・ウィリアムズ
③エリック・カール ④アーノルド・ローベル

II. 6歳のとき、リンゴの木から落ちます。何の上に落ちた?

- ①葉の束 ②枯れ葉 ③ブタ ④カゴ

III. 牧場でアルバイトをしていたとき、ある動物に人工呼吸をしたそうです。その動物とは?

- ①ウシ ②ウマ ③クマ ④ヒツジ

IV. 小学生の時から好きで、大人になってもしていたことがありました。それは何?

- ①人形遊び ②土いじり
③大工仕事 ④作曲

V. 子どものころからの夢は?

- ①記者 ②教師 ③冒険家 ④母親業

【こたえ】は左下にあるよ

【参考文献】

『「エルマーのぼうけん」をかいた女性 ルース・S・ガネット』前沢明枝/著(福音館書店)
『エルマーのぼうけん展』(ブルーシープ)

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 1月 —

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

休館日

【こたえ】 I・① II・③ III・③ IV・③ V・④

●臨時休館(室)のお知らせ

多可町図書館ではICTを活用したサービスを導入するため、下記のとおり臨時休館(室)をさせていただきます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

休館(室)期間

加美・八千代図書室 令和7年1月4日(土)~2月10日(月)

多可町図書館 令和7年2月1日(土)~4月2日(水)

多可郡中学生 理科自由研究作品展

10/10~24



今年も約2週間、図書館の学習室で作品を展示しました。毎年のことながら力作揃い！柔軟な発想でテーマを取り上げ、観察・研究されていました♪

講演会

10/20

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」を発行された福井県立図書館より司書の宮川陽子さんを講師にお迎えし、「一生使い倒す！図書館の上手な使い方」と題してご講演いただきました。図書館のカウンターに利用者から寄せられる、タイトルや著者の覚え違い、これを愉しむつつ、司書やレファレンス業務について、どのような仕事なのか、その意義とは何なのか、ということをお話いただきました。インターネットでは検索サイト側が見てほしいアカウントやコンテンツが上位に表示されるなど、検索結果が操作されているのに対し、図書館では信頼できる情報源、あるいは情報の責任所在が明確な本から調べて質問にお答えします。お探しの本や知りたい情報についてのご質問、いつでも受け付けています。図書館をお気軽に便利にご利用ください！



読み聞かせ講座

10/31



子育てふれあいセンターと共催で、読み聞かせ講座『絵本は魔法？』を開きました。講師は、丹波篠山市で24年間文庫を主宰されている今西茂子さん。心ある作家が子どもの幸せを願って作った良書は子どもを惹きつける力があり、そこでであった言葉が現実と絵本を行き来することで、子どもは少しずつ成長していく、と教わりました。また身近な大人が読んであげること絵本に命を与えることができるといった話もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

図書館 NEWS

— 10~12月 —

手あそび&わらべうた

11/2



「姫路おはなしの会」所属の原三恵子さんを講師に、昔から伝わる手あそびやわらべうたを学びました。手あそびやわらべうたには、心地よい響きがあり、くり返すことで小さい子どもたちに安心感を与えます。講座では、原先生の歌うリズムに合わせて顔あそびや2人1組で楽しむわらべうたなど、たくさんの種類を教えていただきました。わらべうたや手あそびの持つ魅力に触れる貴重な時間となりました。

◆フルート奏者深田玲功さんによる クリスマスミニコンサート

図書館の中を深田玲功さんが奏でる美しいフルートの調べが、吉田律子さんによるピアノ伴奏と共に響き渡りました。コンサートには60名を超える多くの方にご来館いただきました。

大人から子どもまで幅広く楽しめる曲を演奏いただき、館内を優雅なひとときにかえてくれました。



クリスマスイベント

12/14

◆雑誌付録抽選会

令和2年から実施している雑誌付録の抽選会。11/1~12/8までに20冊の本を借り、希望された方に抽選券を配布しました。応募総数 251 名。当選者数 51 名。たくさんのご参加ありがとうございました。

◆クリスマス おはなし会

大型絵本やパネルシアターなど、おはなしサークル「あいあい」さんによる楽しいおはなし会。参加者には絵本カバーでつくったうちわをプレゼントしました。



多可町図書館からのお知らせ

休館(室)期間

加美・八千代図書室:令和7年1月4日(土)~2月10日(月)

多可町図書館:令和7年2月1日(土)~4月2日(水)

①図書館システムの更新に伴い、平成27年以降、使用されていない図書館カードは4月3日以降使用できません。それまでにカード更新いただくか、4月3日以降、再度カード発行のお手続きをお願いいたします。

②システム更新のため図書館ホームページが停止します。2/3~10の間、本の検索等ができません。ご了承ください。



Book Menu

『日比野豆腐店』



小野寺史宜/著
徳間書店 (F オノ)
ジャンル: 小説

『なぜ働いていると 本が読めなくなるのか?』



三宅香帆/著
集英社 (O19 ミ)
ジャンル: 実用書

『けしつぶクッキー』



マージェリー・クラーク/作
童話館出版 (K933 ク)
ジャンル: 児童書

東京都葛飾区にある日比野豆腐店は、最寄り駅から徒歩5分のところにある、家族経営の小さなお店です。1丁400円のものから少し手頃な定番商品、揚げ、がんもどきを扱っています。豆腐好きには「何もつけなくても十分大豆を味わえる」と好評ですが、スーパードリンクのものは格段に高いこともあり、店を訪れる客は日に30人ほど。78歳の初は、自分が生きているうちに店を畳むことを考えながら、これまでのことを振り返っていました。

小さいながらも順調だった店が暗転したのは4年前のこと。3代目でひとり息子の清道が、コロナウイルスに感染し50歳で亡くなったのです。閉店の危機に見舞われますが、嫁の咲子は夫が愛した店を守りたいと会社を辞め、豆腐づくりに加え新たな卸し先探しにも大奮闘しています。高校2年生でマイペースな孫の令哉も、「この豆腐が食べたい」と足を運んでくれる客との触れ合いや周囲の人たちから刺激を受け、将来のことを真剣に考えるようになります。

辛い出来事を経てなお誠実に生きる家族と、店を訪れる客との温かい交流を描いた物語です。(あ)

仕事に追われ、読書や趣味に時間を割くことができないと感じる人は多いのではないのでしょうか。一般的には、長時間労働によって「読書の時間」を奪われたと考えがちですが、実際には、長時間労働自体は昔から続いており、現代に始まったことではありません。この苦しみは、いかにして生まれたのでしょうか。

明治時代以降、時代ごとに変化する日本の働き方と読書の関係を振り返りながら、「なぜ現代では労働と読書が両立しづらくなっているのか?」という問いに答えを導き出しています。書籍には歴史的背景やさまざまな文献が引用されており、本好きの方にも楽しめる内容です。本から得られるのは、インターネットで手に入る「情報」ではなく、読書を通じて得られる知識の中に潜むノイズや偶然性です。読み手が予想していなかった展開や知識が登場することにワクワクしてみませんか。疲れてスマホばかり見てしまいうあなたにこそ、ぜひ手に取って欲しい一冊です。

あとがきには、働きながら本を読むコツも紹介されており、最後まで楽しんで読める内容になっています。(よ)

ちいさな男の子アンドルーシクが4才半のとき、カチューシカおばさんが大きな船にのってやってきました。ある土曜日の朝、おばさんはけしつぶクッキーをやってかまどから出し、テーブルの上に並べました。そして市場へ行ってくるあいだ、子猫や犬を近寄らせないように、とアンドルーシクに言いました。

「はい、よくわかりました!クッキーを見張っています」と調子よく答えたアンドルーシクでしたが、留守番のあいだにいたことは、ふかふかの羽ぶとんの上でぴよんぴよん飛び跳ねることだけでした。

ちいさい女の子エルミンカが4才半のとき、アントンおじさんがやってきました。おじさんが弟にくれた赤いブーツをエルミンカはとても気に入って、自分がかくことにしましたが、かもにつつかれ池に落ち、泥水でぐしょぐしょになってしまいました。

アンドルーシクやエルミンカ、そしてヤギや犬、がちょうたちが巻き起こす騒動に、大人たちは寛容です。幼い子の日々の出来事を物語に仕立てあげた、楽しさのつまったおはなし集です。(り)